

だい かい まつど し がい こくじん  
第34回 松戸市外国人  
にほんご  
日本語スピーチコンテスト

結実

*Efforts eventually  
bear fruit.*

ねん がつ にち ど じ  
2026年2月28日 (土) 13時から  
まつど しみんげきじょう  
松戸市民劇場

## 【表紙の書】

書: 檜作 直美 (翠京書道会)

MIEA会員

今年の書は「開花結実」とさせて頂きました。

一生懸命に頑張っているもうまくいかないことや、何度挑戦しても叶わないこともあると思います。それでも一步一步前に向かって恐れずに進む先には、重なり合った力となり現れてくるでしょう。努力はいつか報われることを願っています。

## ■司会

TRINH PHAN ANH HAO

まつど国際文化大使 ベトナム出身

大川原 紗良

第43回松戸市高校生英語スピーチコンテスト市長賞

## ■ボランティア

松戸市立松戸高等学校の生徒の皆様

主催 公益財団法人松戸市国際交流協会

共催 松戸市

協賛 国際ロータリー第2790地区第13グループ

(松戸・松戸東・松戸北・松戸中央・松戸西各ロータリークラブ)

◇ ■ ◇ ■ ◇ 次 第 ◇ ■ ◇ ■ ◇

◆ 開会

13時

主催者挨拶

公益財団法人松戸市国際交流協会理事長 伊藤 誠

審査員紹介

早稲田大学大学院日本語教育研究科 研究科長・教授 小林 ミナ 様

一般社団法人アクラス日本語教育研究所 代表理事 嶋田 和子 様

まつど国際文化大使 姜 性湖 様

松戸市教育委員会 学校教育部 学習指導課 指導主事 小林 拓郎 様

公益財団法人松戸市国際交流協会副理事長 木川 総一郎

◆ コンテスト

前半の部 一休憩(15分) 後半の部

◆ アトラクション

ピアノ演奏 高田 あすか 様

◆ 表彰式

15時30分

来賓挨拶

松戸市長 松戸 隆政 様

国際ロータリー第2790地区第13グループ ガバナー補佐 石井 弘 様

講評

審査員長 小林 ミナ 様

審査結果発表及び表彰

松戸市長賞

公益財団法人松戸市国際交流協会理事長賞

ロータリークラブ賞

優秀賞

特別賞

◆ 閉会

16時20分

◆ 交流会

16時30分 会場:1階 第2・3会議室 (17時終了予定)

# アトラクション

えんそう  
ピアノ演奏

たかだ  
高田 あすか



## — program —

- ピアノ組曲「四季」より 〈春〉  
(高田あすか作曲)
- 幻想曲「さくらさくら」  
(平井康三郎作曲)
- 「にほんのうた変奏曲集」より  
〈赤とんぼ〉 変奏曲  
(三宅榛名作曲)
- 千本桜  
(黒うさP作曲 Shunn編曲)

## — profile —

4歳よりピアノを学ぶ。

聖徳大学附属中学校・高等学校に進学し、和田仁氏に師事。

日本大学芸術学部に進学後、楊麗貞氏に師事する。

大学在学中より楽曲提供、ボイストレーニング指導、演奏活動を開始。

その後、音楽学校MESAR HAUSにてシンガーソングライティングを学ぶ。

卒業後は、複数の大手音楽教室にてピアノ、ボイストレーニング、DTMを指導、楽曲提供、採譜など複数の分野活動。

コロナ禍を機に2020年よりPaty Music House 音楽教室を主宰し、ピアノ、ボイストレーニング、作詞・作曲、音楽理論、DTMなど幅広く指導している。

だい かいまつど し がいこくじんにほんご しゅつじょうしせいちらん  
**第34回松戸市外国人日本語スピーチコンテスト 出場者一覧**

No.	氏名	国	演題	ページ
1	アグスティン キム ラベネ ベラロ	フィリピン	手を差し伸べましょう	1
	Agustin Kim Ravene Belalo			
2	ソー ティリ サン	ミャンマー	いえ家	3
	Soe Thiri San			
3	ユー ヒロケン	中国	音から感じた異文化	5
	俞 弘健			
4	ルオン ティ クエン	ベトナム	仕事での初めての経験	7
	Luong Thi Quyen			
5	ミカイル・キンドルク	ベラルーシ	言語の力	9
	Mikhail Kindruk			
6	ライ サミシャ	ネパール	「上手ですね。」	11
	Rai Samiksha			
7	レー ズイ フン	ベトナム	母の夢	13
	Le Duy Hung			

きゅう けい  
**休憩**

8	シュレスタリケシュ	ネパール	自分へのご褒美	15
	Shrestha Rikesh			
9	ファム ティ フェ	ベトナム	私の考え	17
	Pham Thi Hue			
10	アソムブラド ヘレミアス メデリオ	フィリピン	日本のリアルは字幕がない	19
	Asumbrado Jeremias Medillo			
11	ファーム ミン アイン	ベトナム	私の目で見える	21
	Pham Minh Anh			
12	ソン ゲイウン	中国	松戸の四季が教えてくれた、「私の季節」を待つこと	23
	孫芸藝			
13	ダオ ティ カム バン	ベトナム	愛国心の形	25
	Dao Thi Cam Van			
14	ザン ティ ズン	ベトナム	アルバイトを通して学んだ「我慢しない勇気」	27
	Giang Thi Dung			

■ 審査は、内容・日本語力・話し方を基準に行います。スピーチ原稿は応募されたものをそのまま掲載しております。

# ① 手を差し伸べましょう

フィリピン／Agustin Kim Ravene Belalo  
(アグスティン キム ラベネ ベラロ)

みなさん、夢はありますか。みなさんの夢は何ですか。私は子供のころ、犬夜叉というアニメを見たのをきっかけに「日本に行きたい。日本に住みたい」という夢が生まれました。その夢があったので、アニメ以外にも日本についての動画をよく見ていました。日本に来る前には、「日本はとても安全な国です」とか「日本はきれい」とか「日本人は優しい」といったコメントをよく聞いていました。

そして、2024年3月、私は新聞奨学生として日本に来ました。あと少しでもう2年になります。聞いていた通り、日本はとても安全できれいな国です。そして、日本人は優しい。日本語学校の先生たち、アルバイトの先輩たちも優しいです。でも1つのことに気が付きました。日本人全員ではないのですが、知らない人に対しては冷たい人が多いのではないかとということです。

ある夏の日、新松戸駅の近くでだれかが突然倒れました。私はびっくりしましたが、周りの人は歩き続けるだけで、私よりずっとその近くにいた人も何もしようとしませんでした。友達と2人でその人を助け起こして、ゆっくりベンチに座らせました。その日はとても暑かったから、水も買ってあげました。

また、去年の冬のことです。朝刊を配達していた時、知らないおじいさんが私を呼んでいるのが聞こえました。夜中だったので、近づくのをためらいましたが、必要がなければ呼ばないはずだと思って近づきました。すると、道に迷っていたみたいでした。おじいさんは何も覚えていません。何も持っていませんでしたから、私は心配して警察に電話しました。警察に場所を説明するのは難しかったけれど、何とかできました。そして警察が来るまでの間おじいさんに自分のコートを貸してあげて、一緒に待っていました。結局その日はいつもよりも配達が終わる時間が遅くなって、日本人の先輩たちは心配していました。事情を話すと「それは優しすぎない？」と言われました。

日本の生活は確かに大変です。みんな仕事があったり、アルバイトをしながら学校へ行っていたりする上に色々な行動を急いでしなければなりません。そんな中で人を助けるのは大変かもしれませんし、時間もかかります。

先輩の意見もよくわかります。けど、私はできるだけ困っている人を助けたいと思っています。もちろん時間はかかります。他にすべきことがあるかもしれないし、助けるメリットもないかもしれません。それでもみんなお互いに責任があると思うんです。

私たちは永遠に体が丈夫なわけじゃありません。今は丈夫でも、いつか私たちは年を取ります。弱くなる時、困る時があります。いつか私たちもだれかに助けてもらいたくなる時が来るかもしれません。そんな未来など嫌だと思っていたとしても。困っている人を見かけたら、みなさんの家族や大切な人のことを考えてみてください。みなさんにとって大切な人がその人と同じように困っていたら、誰か助けてあげてほしいと思うでしょう。

一人で生きている人はいません。家族や友達や近所の人たちだけではなく、みんな一緒に生活しているのだから、助け合うことが大切です。

できるだけ困っている人を見たら怖がらないで、ためらわないで、小さな行動でも人の助けになることをすべきです。この社会で人はみんなお互いに責任があるのですから、ぜひ手を差し伸べましょう。

## ② 家

ミャンマー／Soe Thiri San  
(ソー ティリ サン)

家は皆さんにとってどんなイメージを持つものですか。どんな意味を感じますか。小さな子供でも知っている言葉ですよ。でも考えれば考えるほど深い意味がある言葉だと思います。

私は「家」という言葉を聞くといつも温かい気持ちになります。皆さんはどうでしょうか。同じ気持ちですか。「家」はもちろん住む所です。しかし、自分の悩みなどを消し去ってくれる人もまた「家」と言えるのではないのでしょうか。

人生は予定通りにはいかないものです。私は数年前、予定にはなかった日本へ1番楽な家を離れて来ました。日本へ来たばかりの時は大変なことがたくさんありましたが、耐えられたのは日本で出会った人達という新しい「家」のおかげでした。毎日学校に通ううちにだんだんクラスメイトたちと仲良くなり、先生も皆優しくしてくれたから来た時の悩みはあっという間になくなりました。アルバイトも見つかって、アルバイトをしながら学校に通い、日本の生活リズムに慣れていきました。もちろん人間のすることですから、生活をする中で失敗もありました。その時も優しい先輩のアドバイスと友人の応援が心の支えになってどんな失敗でも乗り越えられました。自分の失敗を反省しながら日本の生活に慣れていく中で、日本も「家」みたいに感じられてきました。

しかし、時間というのは楽しい時ほど早く終わってしまうものです。そろそろ卒業の日がやってきて、それが終われば千葉県は古い「家」になります。人生は前に進まなければなりません。日本のまた別の顔を見てみたかった私は大阪という新しい「家」に引っ越すことにしたのです。もちろん大阪ではまた色々な困難が待っていると思います。今まで考えもしなかった問題にも遭うかもしれません。けれども、大阪でもまた「家」みたいな人のおかげで困難を乗り越えられるはず。そして、その経験から学んでさらにより良い自分になれるように挑戦してみたいです。

色々な理由で私みたいに引っ越しする人もたくさんいますよね。皆さんの中にもいると思います。何しろ人生は変わっていくものです。変わるからこそ生きがいがあるのだと思います。恋人、友人、あと親子の関係さえも変わることがあります。そのために関係が失われてしまう場合もあるのですが、それは自分にとって本当の居場所ではなかったからなのかもしれません。

反対に、一度も引っ越ししてこなかった人、つまりどんな関係も生まれてから変わらない人もいるでしょう。その人はとても幸運です。それは、自分のことをありのままに受け入れてくれて、何もかも諦めたくなるような人生の一番暗い時期でもいつも応援し、手を放さないで最後までいてくれる人がいるということだからです。そのように誰かが自分の味方になってくれるから、自分もその誰かの「家」になってあげるのも当たり前のことではないでしょうか。どんな関係においても、お互いに共感しあうのが大事だと思います。

ただし、人間の気持ちは完全にはコントロールできないものです。相手はもちろん、自分の気持ちも変わる可能性がありますよね。その結果、一緒にいることがお互いに辛くなったような時は、時間を無駄にしないように手を放すことも大切です。それでも、最後には自分だけの「家」がきっと見つけられると思います。

引っ越しは大変ですよ。時間もお金もかかるし。それは人という「家」をかえるのも同じです。でも、どんな出来事にも起こるべき理由があるから、私たち人間はそれを経験しているのだと私は信じています。だから、人生を自分なりに頑張りながら私たちは誰かとお互いにとっての「家」となることを目指していけば、そこに生きがい生まれるのではないのでしょうか。

### ③ 音から感じた異文化

中国／俞 弘健  
(ユー ヒロケン)

みなさん、こんにちは。いきなりですが、みなさんに質問です。私が日本に来て、一番びっくりしたことは何だと思いますか。美味しいラーメンでしょうか。それとも複雑なゴミの分別でしょうか。いいえ、違います。それは、電車の静けさです。初めて日本の満員電車に乗ったとき、私は耳を疑いました。こんなに人がたくさん乗っているのに、シーンとしている。聞こえるのは電車の音だけ。あまりにも静かすぎて、私、自分のお腹がグーッと鳴ったらどうしようって、本気で冷や汗をかきました。もしお腹が鳴ったら、車両全体に響き渡ってしまいそうですよね。

私が育った中国では、これはありえません。中国の電車やバスの中は、本当に賑やかです。みんな、まるで自分の家のリビングにいるかのようにリラックスしています。電話で大きな声で話すのは当たり前。友達とのおしゃべりで盛り上がっている人たちもいます。もしみなさんがその光景を見たら、きっこう思うでしょう。あれ、あの人たち喧嘩してるのかな？と。でも安心してください。喧嘩なんてしていません。ただ、今日の晩ごはんは餃子にする？それともチャーハンにする？と相談しているだけなんです。中国では、声の大きさは元気の良さ。賑やかであることは、活気がある証拠なんです。

そんな中国から来た私にとって、日本の静かな電車は、最初は正直ちょっと怖かったです。みんなスマホばかり見て、顔が無表情に見えました。電話がかかってきても、慌てて切ってしまう。私は思いました。日本人はなんて冷たいんだろう。他人に興味がないのかなって。

でも、日本で生活して友達ができたり、アルバイトをしたりするうちに、私の考えは変わりました。あれは、冷たいんじゃないんですね。むしろ、優しさなんだと気づきました。電車の中には、仕事で疲れている人もいる。寝ている人もいる。だから、音を出さないようにする。自分の話したい気持ちを我慢して、周りの空間を守っている。つまり、あの静けさは、お互いを思いやる静かな優しさの塊だったんです。

中国の賑やかさは、あなたと仲良くしたいですよという、熱いアピールです。日本の静けさは、あなたの邪魔をしませんよという、控えめな配慮です。表現の方法は真逆ですが、どちらも相手を大切に思う気持ちには変わりありません。

このことに気づいてから、私は日本での生活がもっと楽しくなりました。もちろん、今でもたまに、中国のあの賑やかなおしゃべりが恋しくなることはあります。でも、日本の静かな空間で、ぼーっと考え事をする時間も大好きになりました。今の私は、中国と日本のハーフのような考え方になっています。自分の意見を言うべき時は、中国式でハッキリと言います。でも、周りの空気を読むべき時は、日本式で静かに見守ります。これって、すごく最強だと思いませんか。中国のパワーと、日本の優しさ。この二つを使い分けることができるようになったこと。それが、私が日本に来て得た一番の収穫です。

最後になりますが、私たちはつい自分の当たり前を基準にして相手を判断してしまいがちです。でも文化の違いにどちらが正しいという正解はありません。大切なのは、相手がどうしてそうしているのか、その理由をちょっとだけ想像してみることだと思います。違う文化を知ることで、世界はもっと広く、面白くなります。私はこれからもこの二つの文化を大切にしながら、周りの人と心で繋がっていきたいです。

## ④ 仕事での初めての経験

ベトナム/Luong Thi Quyen  
(ルオン ティ クエン)

皆さんは今まで、仕事とかアルバイトなど、自分で働いたことがありましたか。今、私は日本語学校で勉強しながら新聞を配っています。やっぱり、日本での生活はとても大変だと思います。それに、朝、早く起きなければならないということは私にとってとても大変なことです。毎日の生活も勉強も大変ですが、仕事上でもいろいろな問題にあいました。

ある日、朝刊の配達中にポストに新聞を入れようとした時、お客様が見えたので「おはようございます。」とあいさつしました。けれども、お客様は何も言わずに急いで家に入ってしまった。その時、私は「えっ？私、何か失礼なことをしたのかな？」と考えました。家に入る時のお客様の顔色が白くなったように見えたからです。そのあと、新聞を配りながら、何か悪いことをしたのだろうか、声をかけたのは正しかったのかと考え続けました。

その翌日、仕事の時に新聞販売店の人たちにその時のことを話しました。すると、店長は「へえ。そんなことがあったの。でも、珍しいことじゃないから、そんなに気にしないで。」と言ってなぐさめてくれました。

また、こんな人もいます。その人は私が新聞をポストに入れるといつも部屋の電気を消してしまいます。そして、私がバイクのエンジンをかけるとまた電気を点けるのです。「どうしてだろう。」私はいつも考えてしまいます。考えても、全く分かりません。

私は「どこにも親切な人もいるしそうじゃない人もいる。店長が言ったように気にしすぎちゃだめ。」と自分で自分を励まします。よく考えると、日本へ来てからいい人にもたくさん会いました。新聞配達中にプレゼントをくれた人もいたし、会うたびに「すごく暑いですね。熱中症にならないように気を付けてね。」と応援してくれる人もいます。それは簡単な言葉ですが、一日中嬉しい気持ちになります。

日本で働いて、大切なことを学びました。まず、一番大切なことは時間を守ることです。二つ目は、何か間違えた時はすぐ謝ることと、責任を取ることです。私は新聞を3回間違えて配ってしまったことがありました。店長にすぐに謝りに行くように言われましたが、その時は友達にお花見に誘われていたので、私は思わず、「えっ。」と言ってしまいました。結局、店長にひどくしかられて、「私はベトナムのルールは知らないけど、日本で働くなら、日本のルールを守れ。守らないなら国へ帰れ。」と言われました。それ以来、私はそんなことは二度としないと心に決めました。誰かに仕事を任せられたら最後まで責任を持ってやろう、他の人に迷惑をかけるようなことはしてはいけないと心がけています。

アルバイトでの経験のおかげで、初めての給料で自分が欲しかった物を買うこともでき、いろいろなことに自信がついてきました。それに文化や規則、新たなことを学ぶこともでき、ここの人々の親切な心を感じることもできました。

ですから、日本に長く住んで、経験したことを日本とベトナム、両国の経済発展とよりよい関係が築けるように努力していきたいと思います。

## ⑤ 言語の力

ベラルーシ/Mikhail Kindruk  
(ミカイル・キンドルク)

「ミーシャって、よろしく」。「はじめまして。ミーシャです」。「どうも、ミーシャです。よろしくお願ひします」。「えー、私の名前はミーシャと申します。本日はこのような貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。よろしくお願ひいたします」。……全部、同じ意味ですね。「ミーシャです。はじめまして。」でも、敬語やニュアンスによって、皆さんが受け取った印象は、まったく違ったはずです。

言語って、本当にすごいものだと思いますか。もし、あなたが一つも言語を知らなかったら、あなたの「考え」は、どんな形をしていると思いますか。それは、言葉ではなく、映像や感覚だったはずです。

私たちは、生まれたときから言語と一緒に生きていますね。一生ずっと使っているで、それを「当たり前なもの」だと思ってしまうで。でも、言語は本能ではありません。高度なスキルであり、世界を理解し、世界を変えるためのシステムですよ。

もともと、言語はとてもシンプルなものでした。頭の中にある何かを、口から音として出す。すると、その何かが、相手の頭の中に現れる。……これって、ちょっと魔法みたいじゃないですか？

私が「うさぎ」と言うで、皆さんは、その動物を思い出します。「すっぱい」と言うで、その味が、口の中に広がっていますね。「誠に申し訳ございませぬ。この度は、私の極めて配慮に欠けた不注意な行動により……」と言うで、「あ、この人、何かとんでもないミスをしたな」と分かりますよね。

はい。コミュニケーションは、ちゃんと成立しています。

でも、言語はそれだけではありません。言語は、文化、年齢、教育、性格、感情、立場……そういうものまで、すべて伝えてしまいます。

例えば、私が日本語で「これ」「食べます」だけを使って話していたら、どうでしょうか。

意味は、伝わります。でも、多くの方は、私を対等な相手としては見ないと思います。

どんな経験があっても、何か国語も話せても、皆さんより年上だったとしても言語のせいで、「子どもレベルの人」に見えてしまう。「この人と、何を話せばいいんだろう」「どうやって、深い関係を作ればいいんだろう」

……そう思われても、仕方がありません。当然 だから。

日本語を見るだけでも、日本の価値観が見えてきます。社会的な立場、上下関係、保守性、そして、相手への配慮。それらすべてが、最初から言語の中に組み込まれています。だから、日本人が外国語を話すと、「別人」みたいに感じる場合があります。使っている道具が、まったく違うからです。

これが、言語の力です。言語の中には、その国を理解するためのたくさんのヒントが、隠されています。それは、実際に学び始めてみないと、分かりません。

言語を学ぶということは、ただ「通じる」ことではありません。相手の世界の見え方を、少し借りることだと、私は思います。だから、皆な「世界をもっと知りたい！」という気持ちで外国語を勉強しましょう！

ご清聴、ありがとうございました。

## ⑥ 「上手ですね。」

ネパール/Rai Samiksha  
(ライ サミシャ)

私はおととしの4月に日本へ来ました。少しさくらが咲き始めていました。

日本に来て初めてのころはもちろん日本語のレベルが足りなかったし、日本の生活になれていなかったの、3カ月間アルバイトが見つかりませんでした。でも、ネパールの先輩がコンビニのアルバイトを紹介してくれたので面接に行きました。先輩に「店長にしっかりあいさつしてね。」と言われました。「はい、わかりました。」と言いましたが、少しも自信がありませんでした。でも、面接が終わると、「合格です。今から3時間練習して。」と店長に言われました。驚いたので、長く息を吸ってから「はい。」と返事をしました。

制服を着てレジに出ました。学校で先生たちがゆっくり、やさしく教えてくれる日本語さえわからない私が絶対にコンビニで働けるはずがないと思っていました。店長には「日本語がわからなくても大丈夫。大きい声で『いらっしゃいませ』としっかりあいさつだけしてね。」と言われました。先輩と一緒にレジに出て、先輩に続いて「いらっしゃいませ。」と言いました。そのあと先輩に「1時間だけ私がレジをやるから、あと残り2時間、私がやった通りにやってみて。」と言われました。でも、先輩がお客様に何と言っているか全くわかりませんでした。

1時間たちました。先輩が「ちょっとやってみて。もし間違えても大丈夫。私が直します。」と自信を持たせてくれました。

お客様がレジに来たので「いらっしゃいませ。」と言いました。お客様は私の顔を見て「日本語上手ですね。日本へ来てどのくらいですか。」と言いました。「3カ月たちました。」と答えました。緊張しすぎて手がふるえましたが、答えながらふくろに商品を入れました。お客様は帰るとき、「がんばってください。」と言ってくれました。レジで私は、え、なんで？いらっしゃいませと言っただけなのになんでこんなことを言われたのか不思議でたまりませんでした。

その日は3, 4回レジをやって、揚げ物の作り方やたばこの番号を覚えるためにメモをとりました。やっと3時間たって退勤しました。うちへ帰ってその日お客様に「日本語が上手ですね。」と言われたことをよく考えました。その言葉は私の完璧さを評価しているのではなくて、私が努力している姿を応援してくれたんだと感じました。

それから時々日本語を褒められることがありますが、私は、その言葉を聞くたびにうれしくて、がんばろうという気持ちが出てきます。文法を間違えても発音が少し変でもはざかしいことではありません。学ぶ姿こそ大切で、その姿を見て誰かが温かい言葉をかけてくれる。そう考えて「上手ですね」という言葉が以前より深く心に響くようになりました。

これからも間違いをおそれず、日本語を使い続けたいと思いますもちろん、今も間違えることはありますし、日本人のように話せるわけでもありません。でも、誰かが私の努力を認めてくれたという経験は自信を持って成長し続ける力を与えてくれました。

そして私も、誰かが頑張っている姿を見たら「上手ですね。」と温かい言葉をかけてあげたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。

## ⑦ 母の夢

ベトナム/Le Duy Hung  
(レーズイフン)

はじめまして。私はベトナムから参りました。レーズイフンと申します。

皆さんはお母さんの夢を考えたことがありますか。

私の日本での留学生活ももうすぐ終わろうとしています。そのため、母と電話をするたびに、「日本語学校が終わったら、何をしようと思うの？進学するの？あるいは就職するの？どちらをしたいの？」とよく聞かれます。その時、母の深い愛情と私を心配する気持ちを感じます。母は何をするべきか、いつも私たち兄妹のことを考えます。だからこそ、母の夢とかしたいことを考えるようになりました。

ベトナムで戦争が終わった後、不景気でした。祖父の話によると、9人家族で人数が多かったので、祖父母は子供たちに食事を与えるために一生けん命がんばって、大変だったそうです。だから、母が18歳のころ、大学に行くという夢は不可能になってしまいました。でも、母はあきらめたくなかったそうです。祖父によると、母は会計士になりたくて、さまざまなバイトを始めました。会計専門学校に行くためです。学費を少しずつ貯めるために夜遅くまで働きました。それは簡単ではありませんでしたが、疲れても1度もやめることを考えることはなかったそうです。母はいつも努力を続けた末に、専門学校に進学して、会社で会計士として働きました。でも、結婚してから家族を支えるために、仕事をやめて、自営業をするようになりました。

私は小学生の時、「あなたの夢は？」という宿題があり、文章を書くのが得意じゃなかったもので、母が手伝ってくれました。その時、母の夢を聞かせてほしいと言いました。大きな夢を話してくれると思いましたが、母はにっこり笑って、「学生のころは安定した仕事に就くことが夢だった」と答えました。安定した仕事に就いた後、夢は家庭を作ることに変わりました。数年の努力の末に家を購入できました。その時の生活は大変で、あまり余裕がありませんでしたが、幸福だったと言っていました。今、振り返ってみると、母の夢は地味でしたが、家族に対する愛情が込められています。

そして今、スピーチの原稿を準備するために、どんなテーマで話そうか考えているうちに母について思い出しました。もう一度母に、今何をしたいか、今の夢は何かと聞きました。母は私たち兄妹の仕事のことを心配しているから、私に安定した仕事に就いてほしい、妹も大学を卒業したから、合った仕事が見つけれたらいいと思っていると言いました。私たちが成長するにつれて、母の願いも変わってきていることに気づきました。若いころは学ぶこと、そして家族のこと、そして今は子供のことを願うようになりました。

母は、いつも私たち兄妹のことを考えていてくれるので、少しずつお返しがしたいと思っています。まず、いつも私のことを心配している母を日本へ招待して私が生活している新松戸を見せてあげたいです。

## ⑧ 自分へのご褒美

ネパール/Shrestha Rikesh  
(シュレスタ リケシュ)

仕事、勉強、昨日してしまったこと、今日しないといけないこと、将来のこと。このようなことを心配し、皆さんはストレスを感じていませんか。もうやる気がない、もっと休みたいと皆さんは思っているでしょう。それは人間として当然の考えです。しかし、残念ながら大人になったからには頑張るしかありません。でも頑張れば頑張るほどストレスを抱えてしまい、たくさんのストレスを抱えながらでは、前を向いて歩けないでしょう。そのため人はいろいろな方法を使ってそのストレスを発散しようとしています。ゲーム、音楽、歌、絵描き、運動、お酒、たばこなどをストレス発散の方法として使っています。皆さんも何か特別な活動をしているのではないのでしょうか。

私も特別な方法を持っています。それはご褒美です。私は自分に何かいいことがあったときや、頑張ったときに自分にご褒美をあげるようにしています。たとえば、試験に合格した時、仕事がつらくてもあきらめなかった時です。ご褒美といっても高いものや豪華なものではありません。私はいつもその褒美を自分にあげるとき頑張ったよかったなと思い出させるのです。ここで、子どものころの思い出を一つお話ししたいと思います。私が子どものころ、母の田んぼの仕事を手伝ったことがありました。掃除や料理の準備など、簡単なことでしたが、一生懸命手伝いました。すると母は「ありがとう」と言ってくれて、その日は特別に魚のカレーを作ってくれました。その時とても嬉しくて、「手伝ってよかったな」と強く感じました。その経験は今でも忘れられず、私の心に残っています。ご褒美は高い物でなくても、気持ちがかもっていれば人の心に深く残るのだと思いました。皆さんにも子供の時このような経験があったと思います。子供の時家事を手伝った後もらったと思います。チョコレート、服、好きな食べ物。もちろんお金もご褒美の一つです。その時皆さんはこう思ったのではないのでしょうか。「ああ、頑張ったかいがあったな」と。あまりにもうれしくて私はまた頑張りたいと思うようになったんです。私はその気持ちはずっと忘れられず、今も続いているのです。

皆さんも何かいいことがあった時、自分に何かご褒美をあげたほうがいいと思います。高くなくても大丈夫です。チョコレートでも外食でも服でも、なんでも大丈夫です。でも皆さんはこう思われるかもしれません。「でも、リケシュ君。私たちはそんなこといつもしているよ」と。でもそれじゃダメなんだと私は考えています。

買いたいとき買ったものと頑張ったご褒美として買ったものは、たとえ小さなチョコレートだとしても、大きな違いがあるのです。ご褒美として買ったときにはこれまで頑張ってきた達成感と、よし、また頑張ろうという前向きな気持ちがあります。皆さんも何か良いことがあった時や、努力した時には、ぜひ自分に小さなご褒美をあげてみてください。その小さな行動が、これからの毎日を前向きに生きる力になると思います。

## ⑨ 私の考え

ベトナム／Pham Thi Hue  
(ファム ティ フェ)

皆さんは、「あの時の失敗があったから、今の自分がある」と思える経験はありますか。

こんにちは。本日は、このような貴重な機会をいただき、ありがとうございます。今日、私がお話ししたいのは、「成長とは、失敗を恐れず、そこから学び続けることだ」という、私の考えです。

この考えを持つようになったのは、日本でのアルバイト経験がきっかけでした。来日して二年目、私は居酒屋でホールスタッフとして働き始めました。

当時の私は、日本語にも仕事にも自信がなく、お客様に声をかけることさえ怖いと感じていました。失敗をしないことばかりを考え、毎日緊張しながら働いていました。そんな私を支えてくれたのが、沖縄出身の店長でした。店長はいつも、「大丈夫、ゆっくり覚えればいいよ」と優しく声をかけてくれました。その言葉に、私は何度も救われました。

しかし、あるとても忙しい金曜日、私は大きな失敗をしてしまいました。レジのロール紙が切れていることに気づかず、お客様のカード決済を二回行ってしまったのです。請求額は二倍になり、お客様は強い口調で怒っていました。

私は頭が真っ白になり、どう対応すればよいのか分からず、ただ立ち尽くすことしかできませんでした。その時、店長がすぐに来て、何度も丁寧にお客様に謝罪しました。そして最後には、自分のお金で返金し、問題を解決してくれました。営業後、私は自分の失敗を深く反省し、返金したお金を店長に渡そうとしました。

しかし店長は、それを受け取らず、静かにこう言いました。「これは君一人の責任じゃない。分からないことがあったら、必ず確認すること。一人で判断しない。それが社会で働くうえで、とても大切なことなんだよ。」この言葉を聞いた時、私は初めて、責任を持つということの本当の意味を理解しました。

責任とは、失敗しないことではありません。失敗から逃げず、学び、次に活かすことなのだ気づいたのです。

それ以来、私は仕事の中で「確認すること」を何より大切にするようになりました。問題が起きても落ち着いて対応できるようになり、周りの人からも、安心して仕事を任せてもらえるようになりました。

この経験を通して、私は強く思います。成長とは、失敗を避けることではありません。失敗と向き合い、学び続けることです。

この考えを胸に、これからも失敗を恐れず、一歩ずつ前に進んでいきたいと思えます。

以上が、私の考えです。

ご清聴、ありがとうございました。

## ⑩ 日本のリアルは字幕がない

フィリピン/Asumbrado Jeremias Medillo  
(アソムブラド ヘレミアス メデリオ)

みなさん「字幕」という言葉を知っていますか。そうです。アニメや映画を見る時、画面の下に出てくる文字のことです。登場人物が早口で話していても、知らない単語が出てきても、字幕さえあれば何となく内容がわかりますね。「聞き取れなくても大丈夫！」そう思わせてくれるのが字幕です。しかし、外国人にとって字幕はただの文字ではありません。理解するための道しるべ、安心して物語の世界に入るためのかぎです。でも、少し考えてください。もし、その字幕がなかったらどうしますか。

私は長い間アニメを見ていて、字幕のおかげでいろんな言葉が拾えました。その結果、私は少し調子に乗ってしまって、次は日本での生活に挑戦することにしようと思いました。

そして、新聞奨学生として日本へ来るチャンスを得て、おととしの4月に日本へやってきました。

私はフィリピンで6か月間、日本語を勉強していたのですが、ほとんどアニメで習いました。アニメを見ながら「日本語って意外と簡単じゃん」と思っていました。

日本に来たばかりの時、当時の私は自信であふれていて、「ぼくは子供のころからアニメをずっと見ているから日本人と話せるぞ！あいさつのせりふもちゃんと用意できたし簡単だ。」と思い込んでしまいました。

ある日、店で会計をしていると店員さんに「現金ですか。」と聞かれました。私は一瞬、頭の中で考えました。「初対面なのにいきなり元気かどうか聞くんだ。これが日本の文化かな。」そう思った私はにこっと笑って、「元気ですよ。ありがとうございます。」と答えました。その後、よくよく考えて私のミスに気づきました。あまりの恥ずかしさに、しばらく「現金」という言葉が言えなくなってしまいました。それ以来、「お支払方法はどうぞされますか。」と聞かれるたびに、私は「キャッシュをお願いします。」と答えるようになりました。字幕があれば内容も気持ちも全部理解できる気がしました。しかし、日本に来てから気づきました。日本のリアルは字幕がないということに。

字幕がない世界は思ったより静かで、厳しいものでした。自分の気持ちをうまく伝えられず、相手の言葉のニュアンスもつかめません。そのたびに日本語ができない自分が小さく見えました。しかし、ある日、新聞を配達している時に、お客さんに「いつもありがとうね。」と笑顔で言われました。とても短い一言でしたが、その言葉は字幕よりもはっきりと心に届きました。その瞬間、私は気付きました。字幕がない世界だからこそ、自分の耳で聞いた言葉、自分の口で伝えた言葉に特別な意味が生まれるのだと思っています。今でも日本語について学ぶことはまだまだたくさんあります。うまく聞き取れないことや、思った通りに伝えられないこともあります。日本の字幕のない世界は分からない言葉ばかりですが、それでも一日一日、少しずつ分かるようになっていこうと頑張っています。

ふり返ってみると、私が日本で出会ってきた「分からなかった瞬間」はすべて失敗ではありませんでした。聞き返せなかったこと、勘違いしてしまったこと、恥ずかしくなったこと。その一つ一つが私にとっては日本の生活を学ぶ大切な経験でした。でも、字幕のない現実では、立ち止まって考えたり、相手の表情を見たり、自分から行動する必要があります。その分、不安もありますがその不安の中に人とつながるきっかけや新しい発見があることも少しずつ分かってきました。

日本のリアルは字幕がありません。だからこそ失敗をして、笑われて、時々泣いて、それでも前に進む価値があります。これからも字幕のない世界に挑戦し続けたいと思っています。

## ⑪ 私の目で見ると

ベトナム／Pham Minh Anh  
(ファーム ミン アイ)

皆さんは日本へ来る前、日本に住んでいる知り合いから、日本の話を聞いたことがありますか。私は周りの人からたくさんのことを聞きました。「日本人は冷たいよ。」「みんな仕事しか考えていない。他人に興味がない。」「外国人によそよそしい。」その言葉がずっと頭の中に残り、日本へ来ることは楽しみな一方で、不安な気持ちも大きかったです。

日本へ来たばかりのころは、毎日が本当に大変でした。アルバイトではまだ仕事になれていないので、日本語も十分に聞き取れず、ミスばかりしていました。店長に「あなたみたいな人は働けないよ。」と言われたときは、本当に落ち込みました。学校でも同じでした。授業は難しく、先生の説明も理解できず、クラスの中でいつも下の方でした。生活でも、日本のルールをあまり知らなかったため、間違えてしまいました。日本人に注意されたときは、恥ずかしさで顔が真っ赤になりました。

そうしたことで、私は「やっぱり日本は厳しい国なんだ。」「自分は日本に向いていないのかもしれない。」と思いつくようになりました。

しかし、時間が経つにつれて、私はあることに気づき始めました。日本人は厳しいだけではない。むしろ、その厳しさの裏には優しさが隠れていると思いました。

アルバイトでは、確かに叱られることもありましたが、店長も先輩も最後まで教えてくれました。ですから、どんどん仕事に慣れました。店長に「仕事が上手になったね。」と言われた日のうれしさは今でも忘れません。

勉強も最初は辛かったですが、日本語が理解できるようになると、日本語の文章を読みながら、「日本人はこういうふう考えるんだ」「物事の見方が深いね」と思うことも何度もありました。

生活の中でも、日本人の優しさを感じるが多かったです。私の分からないことを優しく丁寧に教えてくれたり、会ったときには会釈してくれたり、笑顔であいさつしてくれたりしました。そんなことだけで、私の心は温かくなりました。

そして少しずつ、私の日本に対する見方が変わってきました。そして私は気づきました。自分の見方が変わったのは、自分が成長したからだということに。

日本に来たばかりの私はほかの人の話やかたよった情報で判断したことがありました。しかし、自分の目で見、自分の足で経験してはじめて、日本人の本当の姿を見つけて日本人のことが理解できるようになりました。日本人は冷たいのではなく、丁寧に距離感を守っています。無関心ではなく、相手に迷惑をかけたくないのだと思います。外国人に対してよそよそしいのではなく、気持ちよく過ごせるようにルールを大切にしています。

そして何より、私は強く感じました。自分が変われば、周りの世界の見方も変わる。成長すれば、物事の良さが見つけられる。こんなことを日本の生活が与えてくれました。

ご清聴ありがとうございました。

## ⑫松戸の四季が教えてくれた、「私の季節」を待つこと

中国／孫 芸藝  
(ソン ゲイウン)

もし一年前、誰かにこう言われたら、私はきっと信じなかったかもしれません。「花が、人生を変えられますよ」と。

しかし、それは本当でした。松戸で過ごしたここ一年間、四季を追いかけるかのように咲く花たちが、外国人である私に、静かで深い言葉をかけてくれました。

四月、日本に着いたばかりの私は、満開の桜に息を飲みました。あまりの豪華さに、ただ「写真に収めなきゃ」と、必死にスマホを構えていました。それは、美しいものを「記録する」ことにすぎませんでした。

五月、八千代市の京成バラ園。色とりどりのバラが織りなす絢爛な世界で、心が躍りました。深紅から淡いピンクまで、それぞれが咲き誇り、ロマンチックな雰囲気にも囲まれました。

六月、梅雨の季節がやってくると同時に、街角ではあじさいが顔を出しました。雨に濡れて一層鮮やかに輝く姿は、夏の訪れを優しく告げてくれているようでした。

私は知らず知らずに、花の開花を「待つ」ようになっていました。

そして秋になって、八千代市の彼岸花祭りで、赤い絨毯のような光景を見た時、私ははっとしました。春や夏とは全く違って、少し寂しい感じをさせる秋に、こんなに圧倒的な生命力で咲く花があるんだ、と。

十一月。本土寺の紅葉の下で、ふと、手にあるスマホを置きました。目に映ったのは、金色の木漏れ日でした。耳には、サラサラという、葉っぱたちのささやきしか聞こえません。

私は今、ただこの瞬間と一体となっています。記録したり、見て楽しんだりするのではなく、松戸の四季が私の中の「急ぎ足」を静かに溶かしてくれているのだと思います。

そうです。日本で就職するために、私は必死に日本語能力を向上しています。聴解力を上げ、早く流暢に話せるようになりたくて、N1に合格しなければ…と、目の前のことで一杯になっていました。「桜を写真に収めなきゃ」と急いでいた私と同じです。そして、すでに隣の花壇のバラが先に咲いていましたから、私自身自身を急ぎ立てなければと痛感しました。確かに、目標を決めて、それに向かって進んでいくことは大切です。でも、私は周りや全体が見えなくなって焦っていました。

そして、桜は一齐に咲いて散りますが、バラは長く咲き、あじさいは雨に映え、彼岸花は秋に一人燃え上がります。どの花にもただ一つの「正しい咲き方」はないと私は考えました。

松戸の人たちが季節ごとの花を愛でるように、人生にもそれぞれの「花開く季節」があります。今、私はこの土地で自分の「つぼみ」を育てています。焦らず、自分のリズムで根を張ればよいと思います。松戸の花が教えてくれたのは、そういうことでした。

ですから、私は強く信じています。人生は一期一会の花の如き、咲く時期も色も形も、人によってそれぞれ異なっています。他人の花園と比べないで、自分の季節が来るまで、この優しい土壌で丁寧に生きることです。やがてきっと訪れるだろうと、自分なりの「満開」が。

皆さんも、どうかご自身の「つぼみ」を大切に育ててください。

以上で私のスピーチです。ご清聴ありがとうございました。

## ⑬ 愛国心の形

ベトナム／Dao Thi Cam Van  
(ダオ ティ カム バン)

皆さんは愛国心と聞くとまずどんなイメージを思い浮かべますか。ベトナム人の私ならすぐにベトナムの国旗が頭に浮かびます。なぜなら、赤に金色の星の金星紅旗は独立と自由を勝ち取ったり、守ったりするための国民の革命精神、犠牲、そして団結の象徴で、国にとって欠かせないものだからです。ベトナムへ来れば一般的な家から町の隅々までどこでも国旗が見られます。

一方、日本に来て私が日本について不思議に思うのは日本人が家の前に国旗をかかげないことです。政府の建物以外、ほとんどどこにも日の丸が見られません。さらに、建国記念の日にも行事が少なく、道もがらがらです。最初、私は「日本人はあまり国を愛していないのだろうか。」と浅い考えを持っていました。

しかし、2年間日本で暮らしている間に私は日本人ならではの愛国心に気付きました。日本人は決して国を愛していないわけではなく、愛国心の表し方がベトナム人と違うだけなのです。日本人の愛国心は外にはっきり表されるのではなく、密かな気づかいの行動に表れるようです。それはちょうど、世界に知られた日本人の性格に似ています。

私が日本人の愛国心を感じた瞬間は、ある朝仕事からの帰り道で見た忘れられない光景でした。きれいな道にたった1つの小さいゴミが落ちていました。すると、1人のおばあさんが道の真ん中であつたそのごみを当たり前のような顔をして、拾い上げたのです。それはほんの小さな行動でしたが、今でも強く印象に残っています。さて、ここにいる留学生の皆さんはもちろん日本の厳しいゴミの分別ルールにもう慣れましたよね？正直に言うと私は慣れていませんでした。「燃えるゴミやら燃えないゴミやら資源ゴミやら面倒くさいなあ。」と思っていました。なのに、おばあさんの行動は強制されたものでもなく、誰かに見せるための行動でもなく、ただ「自分の国をきれいに保ちたい」という心からあふれ出したものだと感じました。周りの環境を守ることは自分が住んでいるところや国への愛を表現しているのではないのでしょうか。「国を愛する」とは、まず自分の周囲をきれいに保ったり、公共マナーをきちんと守ったりするのが初めのステップなのだと私はわかりました。ゴミを拾うという小さな行動は実は愛する気持ちの表れであり、このようなことの積

み重ねこそが国を支える大きな力になるのでしょう。

日本人の愛国心は海外でのふるまいにも表れます。ある YouTube の動画を見て私は驚きました。動画ではイギリスのバッキンガム宮殿の前で日本人の親子が衛兵と写真を撮り、その後衛兵に対して日本式のお辞儀をしていました。海外にいても相手への敬意を忘れず、日本人の品位を保つ姿には私は深く感動しました。自分自身が「日本の代表」であるという自覚をもって正しく行動しようとする彼らの姿が、それも国への愛の表し方なのだと私に気づかせてくれました。愛国心とは海外でも常に謙虚な態度を持ち、国のいい所を世界に広めて国を高める心でもあります。私はまた1つわかりました。

「なるほど！」愛国心には色々な形があると学びました。ベトナムのように国旗をかかげることを通して情熱的な愛を表す形もあれば、日本人のように日々の小さな行動やマナーを通して国の美しさや名誉を守り、高める愛の形もあるということです。大きな声で「国が好きだ」と言う代わりに目の前のゴミを拾うこと、仕事に責任を持つこと、そして他人への敬意を忘れないこと。その1つ1つが国への深い愛の表れだと私は今確信しています。

私も日本で学んだこの「小さな愛国心」を大切にします。まずは自分の身近なところから自覚を持って行動します。そしてこの学びをベトナムにも持ち帰ることで、より良い社会を築ために貢献しようと思います。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

## ⑭ アルバイトを通して学んだ「我慢しない勇気」

ベトナム／Giang Thi Dung  
(ザン ティ ズン)

日本でアルバイトを始めたころ、私は「我慢することが大人だ」と思っていました。特に、外国人として日本で働く私は、失敗しても、つらくても、何も言わずに耐えるべきだと考えていました。日本語が完璧ではない自分が意見を言うことで、周りに迷惑をかけてしまうのではないかと、職場の雰囲気が悪くしてしまうのではないかと、そんな不安を常に抱えていました。

大学に入ってしばらくした頃、私は飲食店のチェーン店でアルバイトを始めました。飲食店で働くのは初めてで、仕事の流れやルール、接客の仕方など、分からないことばかりでした。誰でも最初は戸惑い、失敗しながら少しずつ覚えていくものだと思います、自分なりに一生懸命取り組んでいました。

しかし、アルバイトを始めてしばらくすると、私は毎日、職場に行くことに強い不安とプレッシャーを感じるようになりました。仕事の内容そのものよりも、人間関係や職場の雰囲気が、私にとって大きな負担だったからです。

特に、職場で長く働いている人から、心ない言葉をかけられたり、私だけが違う扱いを受けていると感じたりすることがありました。最初は「自分に経験が足りないから仕方がない」「外国人だから厳しくされているだけかもしれない」と、自分に言い聞かせていました。しかし、そうした出来事が何度も続くうちに、心は少しずつ疲れていきました。

「今日は何が起こるのだろうか」と不安な気持ちのまま出勤する日が増え、仕事が終わって家に帰っても気持ちが休まらず、夜もよく眠れなくなりました。アルバイトのことが頭から離れず、心だけでなく体まで重く感じるようになっていきました。

私はその頃、「自分にはまだ経験が足りないのだから、我慢するしかない」と何度も自分に言い聞かせていました。本来であれば、経験のある人が新人に対して丁寧に教え、支え合うことで、職場全体が良くなっていくはずですが。しかし、私が実際に経験したのは、そうした指導というよりも、失敗を必要以上に指摘されたり、細かい点を執拗に責められたりすることでした。

同じミスであっても、私だけが強く注意されることがあり、また、力仕事や負担の大きい作業を任されることも少なくありませんでした。次第に私は、「これは本当に仕事を教えるためなのだろうか」「それとも、我慢できるかどうかを試されているのだろうか」と考えるようになりました。

我慢することが成長につながる場合もあります。しかし、理由のない厳しさや不公平な扱いは、人を成長させるどころか、心をすり減らしてしまいます。この経験を通して、私は職場における「指導」と「いじめ」は、非常に紙一重であると感じました。

このような経験は、決して特別なものではありません。新人であること、経験が少ないこと、立場が弱いことは、誰にでも起こり得ます。しかし、その「弱さ」に付け込むような態度が当たり前になってしまうと、職場は人を育てる場所ではなく、人を傷つける場所になってしまいます。我慢することが美德とされやすい社会だからこそ、「それは本当に指導なのか」「それとも見過ごされたいじめなのか」、私たちは一度立ち止まって考える必要があるのではないのでしょうか。

それでも私は、すぐに感情的になったり、仕事を辞めたりすることはしませんでした。まずは状況を良くしたいと思い、上司と何度も話し合いました。自分が感じていることを、できるだけ冷静に言葉にして伝え、職場で起きている問題について相談しました。

しかし、何度話し合っても状況は大きく変わりませんでした。そのとき私は、「このまま我慢し続けていいのだろうか」と真剣に考えるようになりました。我慢することが本当に大人の対応なのか、自分の心と健康を犠牲にしてまで続ける必要があるのか、自分自身に問いかけました。

そこで私は、正しい順番で行動することを選びました。一人で抱え込むのではなく、会社に相談しました。会社は私の話を丁寧に聞き、店舗の状況について何度も確認や聞き取り調査、アンケートを行ってくれました。その対応を通して、私は「声を上げることは、決して逃げではなく、自分を守るための行動なのだ」と感じるようになりました。

最終的に、私はそのアルバイトを辞めることを選びました。この決断は簡単なものではありませんでしたが、自分の心と健康を守るために必要な選択だったと思っています。誰かを責めるためではなく、同じように悩む人がこれ以上増えないための一歩だったと、今では前向きに受け止めています。

このアルバイトの経験を通して、私は大切なことを学びました。我慢することは、時には必要です。しかし、我慢しすぎてはいけません。自分の気持ちを言葉にし、助けを求めることは弱さではなく、自分を大切にするための行動です。それこそが、私が学んだ「我慢しない勇気」だと思います。

今の私は、こわいことから逃げるのではなく、落ち着いて向き合えるようになりました。将来、同じような状況に出会ったとしても、感情に流されず、冷静に考え、自分を守る選択ができると思います。この経験は、これからの人生においても、きっと私を支えてくれると思います。

ご清聴ありがとうございました。

みなさま ねが  
皆様へのお願い

- 客席内での飲食は禁止となっております。  
きゃくせきない いんしょく きんし
- 携帯電話は電源を切るかマナーモードに設定してください。  
けいたいでんわ でんげん き せってい
- 話している途中での入退場はご遠慮ください。スピーチの合間にお問い合わせ致します。  
はな とちゅう にゅうたいじょう えんりょ あいま ねが いた
- 当劇場は全館禁煙となっております。  
とうげきじょう ぜんかんきんえん
- 席を離れるときは必ず貴重品はお持ちください。ご自身でしっかり管理してください。  
せき はな かなら きちようひん も じしん かんり
- 非常口は客席の後方2か所と脇に1か所ありますのでご確認ください。  
ひじょうぐち きゃくさき こうほう しょ わき しょ かくにん
- 本日のコンテストの様子は当協会ホームページや新聞、テレビ、広報まつどで公開する  
ほんじつ ようす とうきようかい しんぶん こうほう こうかい  
場合がありますのでご了承ください。  
ばあい りょうしょう
- 皆様が会場内で撮影した画像、録音した音声の二次使用は法律により禁止されております。  
みなさま かいじょうない さつえい がぞう ろくおん おんせい に じ しょう ほうりつ きんし



2026



公益財団法人松戸市国際交流協会(MIEA)

住所 〒271-0092 松戸市松戸1307-1 松戸ビルヂング4階

電話 047-711-9511 FAX 047-308-6789

E-mail : office@miea.or.jp

